

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 6 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200221		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	みのりグループホーム川内		
所在地	広島市安佐南区川内1丁目22-55		
自己評価作成日	H22, 6, 1	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=3490200221&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年6月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の言葉、希望に対し「いつか」ではなく「今の今」を実現しています。又、普段の生活の中では「正面から向き合う、向かい合う、嘘はつかない」を心がけています。「野菜がありやええのう」の言葉に本気で畑をつくりました。「昔は毎日花に水まきよったんよ」の声に花壇を一緒に作りました。「1度でえーから墓参りしたい」の声に市役所、社会福祉協議会の協力を頂きお墓の場所を探し50年ぶりにお墓へ行くことができました。その他バナを丸かじりしたい・・・トイレは一人で行きたい・・・を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は約6年前に開所され、現経営者に引き継がれて2年目であるが、共有空間もゆったりとしたスペースで、施設全般(トイレ・風呂場等)の清掃が行き届いており、清潔に保たれている。今年4月に管理者の交代があり、その機会を捉えて現状の問題点・職員の介護に取り組む姿勢などについて全職員と話し合った。管理者の積極的な取り組み姿勢や、業務改善に取り組む熱意・また介護に対する情熱が強く感じられた。職員も、この管理者の業務改善意欲に同調し、日々業務改善に取り組む姿勢は素晴らしい。事業所に於ける問題点「特に地域との交流・運営推進会議の開催・利用者の家族とのコミュニケーション」があるが、この1年間に改善されており、地域に密着した事業理念「家庭的な雰囲気をつくりたい」に沿ったグループホームの構築が今以上に期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の意義を忘れず、自覚し、信念を持って臨めるよう毎週唱和している。又、「家庭的」をテーマに職員会議を行い実践している。	基本理念「家庭的な雰囲気を大切にし、ゆっくり楽しく明るい笑顔で…」を念頭に、職員会議で「家庭的とは…」グループディスカッションを行い全職員の意識を統一し、入居者に対しゆったりと寄り添い、思いやりのある介護を提供し、入居者の方々が、地域の中で安心して暮らし続けられるよう、事業所独自の理念を掲げ、全職員が一丸となって努力されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	散歩途中など地域の方が花をくれたり、和菓子屋やスーパーなどに買物へ出掛けたり、近隣施設での行事に参加している。	今年4月に新管理者が就任された。前管理者が地域との定期的・継続的な交流の確立に努力されたが、結果的には町内会の加入等拒否され、単発的な交流しか出来なかったようである。新管理者になり、現在積極的に行政・包括支援センター・現事業所の家主等人脈を通じ、地域の一員として、地元の人達と親密な交流に努力されている。	今年度は、新管理者の熱意のある運営で、地域の行政関係者やご近所の方々の支援で、自治会への加入、また地域集会所への出入りなどを通じ、地域の情報がスムーズに入り地域行事等へ積極的な係わりが期待できる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーがおり、地域包括支援センターと計画しているが実施までには至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1度実施し、地域住民の方から「もっと普通の生活が分かれば家族も安心するのでは」との意見に翌月から「近況の報告」として手紙と写真も同封した。後日家族より感謝の手紙が届いた。	前年度の運営推進会議は、3回しか開催できず、会議への出席者の偏り・会議内容も報告が中心で、また家族の方への呼びかけも出来ていない。	今年度第一回の推進会議には、区役所担当者の出席もあり、新管理者の努力で今年度は、2ヶ月に一回の定期的な開催が行われている。今後とも、会議への出席者の見直し、会議に於いても積極的な意見・提案のある有意義な会議の開催が期待される。
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議で普通の生活を報告し意見を頂戴している。又、生活保護の方やかけはし制度を利用されている方に対し担当職員に日頃から連絡、相談している。	市担当者とは、運営推進会議の報告書の提出等、また生活保護の入居者の方の相談などを通じ、日頃から連携が取れている。事業所に認知症アドバイザーも在籍されており、市関係者・地域包括支援センターと協力され、講習会等も計画されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員の目に止まりやすい所へ「身体拘束マニュアル」掲示し、意識を持つようにしている。	玄関入り口には、身体拘束マニュアルも掲示され、研修会に職員の参加も積極的になされ、管理者を始め職員の意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	理念を基本に見過ごしや慢性化がないよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の計画はあるが「権利擁護」の実施には至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が変わって新規契約はまだないが、十分な説明を行い、色々な選択肢の中から自己決定できるよう心掛けている。又、一緒に他施設の空き状況を調べるなど安心、納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時になるべく話をしているが、今後は運営推進会議で「家族代表」を決めて参加して頂くように考えている。	現状はご家族の来訪もやや少なく、運営推進会議への出席も無く、たまに来訪されるご家族の方に要望を聞き、運営に反映されている状況である。今後ご家族との良好な、コミュニケーションの確立が望まれる。	事業所の裏庭にある広い菜園・また花壇を、今年度から積極的に活用される予定である。広い屋上もあり季節の良い時期に、御家族・子供達・地域の方々と入居者・職員と一堂に会し、菜園の収穫祭などで、入居者・職員・ご家族の手作りのパーティ等を行い、家族会の設立、また地域の方々との交流を行われることを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が変わり4月に全職員と個人面談を実施。提案や意見に対し、なるべく迅速に対応するよう心掛けている。	新管理者になり、全職員と個人面接を行い、現状の問題点・また職員の要望等を聞き出し、5月には理念「家庭的とは…」で全職員とグループディスカッションを実施し、事業所の現状を把握や、職員の意見をもとにしながら、業務改善に努力されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格を取得した際、「祝い金」や基本給のベースアップを基本としている。又、職員の意見をなるべく尊重し、実現することでやりがい、意識向上を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加、研修案内を掲示したり、外部勉強会や資料をファイリングして学べる環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	月1回、同業者によるミーティングや、有識者で作る勉強会に参加したり施設見学等積極的に行い意見交換をしている。又、グループホームの組織に入会し参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	行かれる所に一緒に歩いたり、車で実家まで送るなど「入居者第1」を掲げ、職員も同じ悩みや不安と向き合う姿勢を意識的に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の可能な時間に合わせ、面談を行ったり、入居までに何度も訪問するなど、家族の納得されるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談を通じ、「主訴」を明確にし、グループホーム以外の介護サービスと一緒に探したりと本人の思いを尊重している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「施設理念」を再々確認し、上下の関係でなく横と横の関係を大事にし、お互い様の関係に努めている。又、職員だけが手伝うのではなく入居者同士が支え合う環境を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との繋がりを中心にし、ケアを考えている。又、家族に随時、相談、連絡を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の出身地へドライブに行ったり、実家へ帰ったりしている。又、花や畑が好きな方と一緒に畑を作っている。又、実家へ帰り近所の方と談笑されている。	日々の介護を通じた入居者との会話の中から、入居者の方々の要望を聞きだし、入居者の両親の方のお墓参りなど、積極的に支援に努めている。今後入居者の方の生活歴等、更に整備充実されることを期待します。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	部屋で一緒に過ごされたり、一緒に外食するなど利用者対職員だけの関係にならないように配慮している。		
		○関係を断ち切らない取組み	サービスが終了したケースはまだないが、何か約に立		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
22		サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	できる事を探して支えていきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントツールの変更により、希望、意向が分かりやすくなり少しづつではあるが実践できている。	介護計画様式を変更し、センター方式を1部取り入れる等、職員の意向を取り入れたことによって、入居者の希望や意向が把握しやすくなり、全職員で入居者の介護サービスの向上に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人との会話を大切にし、情報収集、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	過ごし方を見直し、出来る限り「本人本位」が実現出来る様努めている。又、往診にて心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングの見直しを行い、色々な意見が反映される様に整備したばかりである。	アセスメント・モニタリング様式の見直しにより、入居者の意見や希望・職員からの意見や提案が早く掴め、現状に即した介護計画が、作成出来る体制が確立されつつある。今後は、もっと家族の方々の意見や提案が、反映出来る体制作りを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	少しづつではあるがご本人の希望を聴き、実践できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	業務に捉われず、本人本位の生活が実現できるよう業務見直しを実施。柔軟な対応が可能な環境を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源把握とまでにはないが、近隣特養の行事に参加するなど少しづつ把握に努めている。		
		○かかりつけ医の受診診断	2週間に1度のペースで往診に来ていただいている。	基本的には、2週間に1回の協力医の往診や、必要に	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	その他、希望や必要時には適宜受診している。	応じた歯科医の在診が行われている。入居者の以前のかかりつけ医の受診も、出来る体制も整備されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在看護師はおらず、気付きは主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在入院されている方がおられるが、職員がお見舞いに行き、ご本人に安心していただくと同時に状況把握に努めている。又、その情報を主治医に報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期のあり方についての説明が浅く、早い段階で十分な説明と環境整備に取り組みたいと考えている。	入居時に一応口頭で重度化、終末期のあり方について説明されている、平成20年7月開設以来、看取りはなされていない。	今後入居者のご家族からも、重度化や終末期の対応について、特に看取り迄を希望される方が増えることが予測されます。その為にも事業所の方針を、書面で明確に示す事が大切だと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練は現在実施していないが、職員から不安の声があり、主治医と相談しながら急変時のマニュアルとは別に夜勤対応のフローチャートを作成中である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練を実施している。地域との協力体制はできていない。	今年4月にスプリンクラーの設置が完了し、年2回の消防訓練も実施されている。今後の課題として夜間の避難マニュアルの作成と、地域との協力体制の確立努力を期待します。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「家庭的とは？」という研修を行い、個人個人を大切にするという事の意味を話し合った。言葉や態度等現在進行中である。	管理者を始め全職員は、日々の関わりのなかで、言葉使いや態度に気をつけ、家庭的な雰囲気を大切に入居者に接している。個人情報の管理体制も出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定できるような声掛け、選択肢の説明を意識的に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「家庭的」の意味を職員同士グループディスカッションをし、その人らしさの大切さを共通認識としながら現在おこなっている。が、実践できる日とそうでない日がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	カットやパーマの他にも毛染めや顔剃りも希望時行っている。外出時も服を選んで出掛けられている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	すべて外注の為実施できていないが、今月より段階的に食事を作ることにしている。又、散歩時や外出時には好きな物を買って食べたり、誕生日にレストランなどに行っている。	現在全て外注で、半調理の食材を職員が最終調理し、盛り付けされている。新管理者や職員の意向等により、極力入居者と一緒に食事を作り、一緒に同じ物を食す方向を模索中であり、早い機会に改善されることを期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食数は毎回管理している。飲み物も本人が選べるよう種類を増やして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは行っている。希望時や必要時、訪問歯科にて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の習慣を大切にしており、トイレへの声掛けはほとんど行わずパターンの把握に努めている。	家庭的な雰囲気での介護をモットーに、入居者の習慣を大切に、トイレでの排泄や排泄の自律に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の有無を確認し、排泄表にて管理している。便秘時は主治医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日入りたい人を聴いて人数によっては入浴時間を変える等出来るだけ希望に沿うよう努力している。	入居者の希望やタイミングに合わせた入浴が行われている。希望によっては、朝風呂や夕食後の入浴なども、可能な限り実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々人のペースで夜を過ぎて頂く事で安心できる環境を作る。出来る限り眠薬に頼らないケアを目標にし、実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	副薬管理台帳を閲覧出来るようにしており、情報共有に努めているが全職員が把握までには至っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アセスメントツールを変えたことで明確になった趣味嗜好に対し、畑を一緒に作ったり花壇をしたりとその時の雰囲気や気持ちを大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	「お好み焼きが食べたい」の声に日程を調整して言ったり、喫茶店に通ったり希望があれば即実行している。	基本的には午前中は裏庭の散歩等を行い、午後はおやつなどを近隣のスーパーなどに、買出しに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在二人が自室で保険証等管理されている。今後も無理に職員が一方的に管理しようとは考えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いなど自由に書いていただいている。電話も随時使っていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベランダに季節の植物を一緒に植えたり、壁に飾ったりして季節を演出している。トイレや共同スペースは細かく掃除をしている。	共用空間は掃除が良く行き届き、清潔な管理がされている。また、洗濯場なども整理整頓されている。共用空間には季節感が感じられる貼り絵などを飾り、居心地良く暮らせるよう工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いの物を自室に入れてもらっている。又、居室で仲の良い方同士が話されている時は必要以上に職員が介入しないよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際や随時説明している。又、思い思いの物を入れられており、心地よい空間になっている。	各居室には、ベッド・整理たんす等が基本的に備え付けられている。入居者はそれ以外に、使い慣れた馴染みの物を持ち込み、家庭的な雰囲気作りにも工夫がなされ、楽しく暮らせる居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	モニタリングを行う際には視点を変えたり、概念を固定しない事を心掛け随時状況把握に努めているが、完全把握には至っていない。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の意義を忘れず、自覚し、信念を持って臨めるよう毎週唱和している。又、「家庭的」をテーマに職員会議を行い実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩途中など地域の方が花をくれたり、和菓子屋やスーパーなどに買物へ出掛けたり、近隣施設での行事に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーがおり、地域包括支援センターと計画しているが実施までには至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1度実施し、地域住民の方から「もっと普段の生活が分かれば家族も安心するのでは」との意見に翌月から「近況の報告」として手紙と写真も同封した。後日家族より感謝の手紙が届いた。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議で普段の生活を報告し意見を頂戴している。又、生活保護の方やかけはし制度を利用されている方に対し担当職員に日頃から連絡、相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員の目に止まりやすい所へ「身体拘束マニュアル」掲示し、意識を持つようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	理念を基本に見過ごしや慢性化がないよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の計画はあるが「権利擁護」の実施には至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が変わって新規契約はまだないが、十分な説明を行い、色々な選択肢の中から自己決定できるよう心掛けている。又、一緒に他施設の空き状況を調べるなど安心、納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時になるべく話をしているが、今後は運営推進会議で「家族代表」を決めて参加して頂くように考えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が変わり4月に全職員と個人面談を実施。提案や意見に対し、なるべく迅速に対応できるよう心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格を取得した際、「祝い金」や基本給のベースアップを基本としている。又、職員の意見をなるべく尊重し、実現することでやりがい、意識向上を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加、研修案内を掲示したり、外部勉強会や資料をファイリングして学べる環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	月1回、同業者によるミーティングや、有識者で作る勉強会に参加したり施設見学等積極的に行い意見交換をしている。又、グループホームの組織に入会し参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	行かれる所に一緒に歩いたり、車で実家まで送るなど「入居者第1」を掲げ、職員も同じ悩みや不安と向き合う姿勢を意識的に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の可能な時間に合わせ、面談を行ったり、入居までに何度も訪問するなど、家族の納得されるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談を通じ、「主訴」を明確にし、グループホーム以外の介護サービスを一緒に探したりと本人の思いを尊重している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「施設理念」を再々確認し、上下の関係でなく横と横の関係を大事にし、お互い様の関係に努めている。又、職員だけが手伝うのではなく入居者同士が支え合う環境を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との繋がりを中心にし、ケアを考えている。又、家族に随時、相談、連絡を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の出身地へドライブに行ったり、実家へ帰ったりしている。又、花や畑が好きな方と一緒に畑を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	部屋で一緒に過ごされたり、一緒に外食するなど利用者対職員だけの関係にならないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了したケースはまだないが、何か約に立てる事を探して支えていきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントツールの変更により、希望、意向が分かりやすくなり少しづつではあるが実践できている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人との会話を大切にし、情報収集、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	過ごし方を見直し、出来る限り「本人本位」が実現出来る様努めている。又、往診にて心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングの見直しを行い、色々な意見が反映される様に整備したばかりである。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	少しづつではあるがご本人の希望を聴き、実践できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	業務に捉われず、本人本位の生活が実現できるよう業務見直しを実施。柔軟な対応が可能な環境を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源把握とまでにはないが、近隣特養の行事に参加するなど少しづつ把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に1度のペースで往診に来ていただいている。その他、希望や必要時には適宜受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在看護師はおらず、気付きは主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在入院されている方がおられるが、職員がお見舞いに行き、ご本人に安心していただくと同時に状況把握に努めている。又、その情報を主治医に報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期のあり方についての説明が浅く、早い段階で十分な説明と環境整備に取り組みたいと考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練は現在実施していないが、職員から不安の声があがり、主治医と相談しながら急変時のマニュアルとは別に夜勤対応のフローチャートを作成中である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練を実施している。地域との協力体制はできていない。		
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「家庭的とは？」という研修を行い、個人個人を大切にするという事の意味を話し合った。言葉や態度等現在進行中である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定できるような声掛け、選択肢の説明を意識的に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「家庭的」の意味を職員同士グループディスカッションをし、その人らしさの大切さを共通認識としながら現在おこなっている。が、実践できる日とそうでない日がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	カットやパーマの他にも毛染めや顔剃りも希望時行っている。外出時も服を選んで出掛けられている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	すべて外注の為実施できていないが、今月より段階的に食事を作ることにしている。又、散歩時や外出時には好きな物を買って食べたり、誕生日にレストランなどに行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食数は毎回管理している。飲み物も本人が選べるよう種類を増やして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは行っている。希望時や必要時、訪問歯科にて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の習慣を大切にしており、トイレへの声掛けはほとんど行わずパターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の有無を確認し、排泄表にて管理している。便秘時は主治医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日入りたい人を聴いて人数によっては入浴時間を変える等出来るだけ希望に沿うよう努力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々人のペースで夜を過ごして頂く事で安心できる環境を作る。出来る限り眠薬に頼らないケアを目標にし、実践している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	副薬管理台帳を閲覧出来るようにしており、情報共有に努めているが全職員が把握までには至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アセスメントツールを変えたことで明確になった趣味嗜好に対し、畑と一緒に作ったり花壇をしたりとその時の雰囲気や気持ちを大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	「お好み焼きが食べたい」の声に日程を調整して言ったり、喫茶店に通ったり希望があれば即実行している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在二人が自室で保険証等管理されている。今後も無理に職員が一方的に管理しようとは考えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いなど自由に書いていただいている。電話も随時使っていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベランダに季節の植物を一緒に植えたり、壁に飾ったりして季節を演出している。トイレや共同スペースは細かく掃除をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いの物を自室に入れてもらっている。又、居室で仲の良い方同士が話されている時は必要以上に職員が介入しないよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際や随時説明している。又、思い思いの物を入れられており、心地よい空間になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	モニタリングを行う際には視点を変えたり、概念を固定しない事を心掛け随時状況把握に努めているが、完全把握には至っていない。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 みのりグループホーム川内

作成日 平成 22 年 7 月 1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		地域、家族との交流	年間計画作成・実施	9月初旬、夏祭り家族会 実施	2カ月
2				忘年会、家族会実施	6カ月
3		必要書類の整備	必要事項の確認、整備	契約書の更新	2カ月
4		運営推進会議	参加人数を増やす	民生委員、町内会長などに声をかけて参加して頂く	2カ月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。